

平成 26 年度第四回摂食嚥下班会議議事録（要旨）

開催日時：平成 27 年 3 月 18 日（水）19 時 00 分～20 時 45 分

会場：新天本病院

参加者（敬称略）：宮本、津久井、佐々木、淵野、門脇、岡島、木下、櫻井、池田
大津、浜本、信夫

※ 群馬NSTより、戸丸様他 4 名がオブザーバーで参加

※ meiji より、トロミ調整食品トロメイクについての情報提供

議題：

1. スマホアプリ mano の進捗状況報告

本日、制作社ワンダワークスのプレゼンテーションを聞いた。

まずはコミュニケーションツールとして使ってみることになった。

対象者は、PT参加している施設、在宅、病院で選定。

20～30 名の方々に活用してもらい、意見をもらうことにする。

試行に必要な説明文書は、本日から 1 週間以内に作成し、理事長の許可を得てから 3 月中に配る予定。（説明用文書作成は、宮本先生と浜本さんが担当）

2. 事例検討

「退院後サービスに繋がらなかった嚥下障害症例について」（資料配布）

Q： 退院後の療養支援について、本人の拒否があり何にも利用できなかった、サービスの必要性をどう伝えるべきだったか？

意見① 本人の性格によるものか、疾病により起きている障害からくるものかによって対応方法は違ってくると思う。

意見② 脳卒中の後遺症は程度によって、自宅退院か転院（施設入所）に分かれることが多く、このケースでも退院準備のスタートが退院 1 カ月前で、ケアマネジャーが決まらない中で、本人へのアプローチも苦労されたと思う。

意見③ 入院中の嚥下リハビリは、かなりハードだったが頑張って乗り越え、それにより経鼻胃管から普通食（水分のみトロミ）が食べられるようになったことは、大きな進歩であり自信だと思われる。家族が本人の意向を尊重している場合、その先の生活は退院後に再検討してもらってよいと思うが、ケアマネジャーになる人に情報提供が必要と考える。

Q： 退院後の嚥下障害に関する情報伝達・共有について、家族からどのようにケアマネジャーに伝わったか不明。受け手側として何が知りたいか？提供側としてどのような手段を使っているか？

意見① 受け手の支援者（ケアマネジャーを含む）は、退院前になにをどのように行ったか知りたい。家族からの情報収集と医療従事者からの情報収集をおこなってバランスを考えながら支援を行っている。

意見② 提供側として、院内体制の違いでいろいろな方法があると思うが、家族了承のもと、

地域包括にケアマネジャー決定したら教えてもらうことがある。また、気になるケースでは、退院1週間後くらいに自宅に連絡とって生活状況を確認させてもらう時もある。

意見③ 気になったままにしておくができないので、聞いてしまいます。心配していることが伝わればわかっていただけると思うし、特に問題はないと考えてます。地域力は、院内より包容力があると思う。

3. その他

今回オブザーバーとして参加された方々は、群馬からNPO立ち上げのために情報収集に来られた。多職種連携のバリアフリー化を実感してもらえたと思ってる。各専門職の職人達が、自身の立場や役割の中から相手との共通項を見出し、同じ目的に向かって意見を伝えあうことを続けていっている。失言もたまにはあるが、お互い様の関係が平成18年以降今日までの連携を維持していることを知っていただければと思った。

次回の摂食嚥下班会議

平成27年5月20日(水)18時~

会場 新天本病院にて